



環境経営レポート

2023 年度 活動報告 (2023/1～2023/12)



株式会社 東興電機製作所

2024 年 3 月 21 日

目次

1.はじめに.....	3
2.組織の概要	4
3.対象範囲・対象期間	5
4.環境経営方針	6
5.実施体制.....	7
6.環境経営目標および実績	9
7.環境経営活動計画・取組結果と評価	14
8.活動内容の紹介.....	22
9.環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無.....	25
10.外部からの苦情などの受付状況及び対応結果	26
11.代表者による全体評価と見直しの結果	27

1. はじめに

株式会社東興電機製作所は 1963 年に創業し、製造部門（医療機器 精密機器 機械加工/組立、超精密微細配線加工）と、IT に関する様々なサービスを提供する IT サービス部（「TOKO DS」）から構成されています。

当社のエコ活動は、2008 年新年、「今年は環境問題に社員全員が関心を持ち、会社として何ができるか考え、具体的に行動していくこ」う」という社長の挨拶から始まりました。同年 6 月、取引先との会合で「エコアクション 21」の存在を知り、認証取得を目指して取り組みを開始。翌 2009 年 4 月には認証を取得し、2019 年には、認証・登録 10 年継続企業として表彰されています。

現在も、エコアクション 21 のガイドラインに則り、省エネ・省資源・廃棄物削減などの環境保全活動に継続して取り組んでいます。



2. 組織の概要

事業所名及び代表者氏名

株式会社 東興電機製作所 取締役社長 土橋 一雄

資本金

1,000 万円

設立

1963 年 6 月

事業所所在地

三鷹本社：〒180-0006 東京都武蔵野市中町 1-9-5 第一中央ビル 4 階

青梅工場：〒198-0022 東京都青梅市藤橋 3-3-5

柏事業所：〒277-0803 千葉県柏市小青田 5-12

EMS 責任者氏名及び連絡先

川本 純子

TEL : 0422 55 5055(代表)/FAX : 0422 55 5051/メール : salesteam@tokods.com

事業内容

三鷹本社 (IT サービス部) :

Web サイト/IT 機器検証、取扱説明書・マニュアル制作、技術翻訳

青梅工場 (製造部) :

超精密微細配線加工、医療機器 精密機器 機械加工/組立、試作製作

柏事業所 (製造部) :

超精密微細配線加工、医療機器組立、試作製作

規模

従業員数：45 名 (2023 年 12 月時点)

敷地面積：三鷹本社：86.1 m²/青梅工場：1495.96 m²/柏事業所：198.72 m²

取得認証

ISO9001 (精密電子機器と電気部品の製造および修理)、ISO13485 (超音波診断用プローブの製造)、ETL マーク(北米)、医療機器製造業、他



3. 対象範囲・対象期間

認証・登録の対象範囲：全社（三鷹本社、青梅工場、柏事業所）

対象期間：2023年1月1日～2023年12月31日

4. 環境経営方針

株式会社東興電機製作所 環境経営方針

株式会社東興電機製作所は、医療機器の製造、放射線測定装置の製造およびITに関する様々なサービスを提供している、環境負荷の低い事業所です。次世代に豊かな地球環境を引き継ぐため、社員ひとりひとりが楽しみながら、環境保全活動の取り組みを継続します。

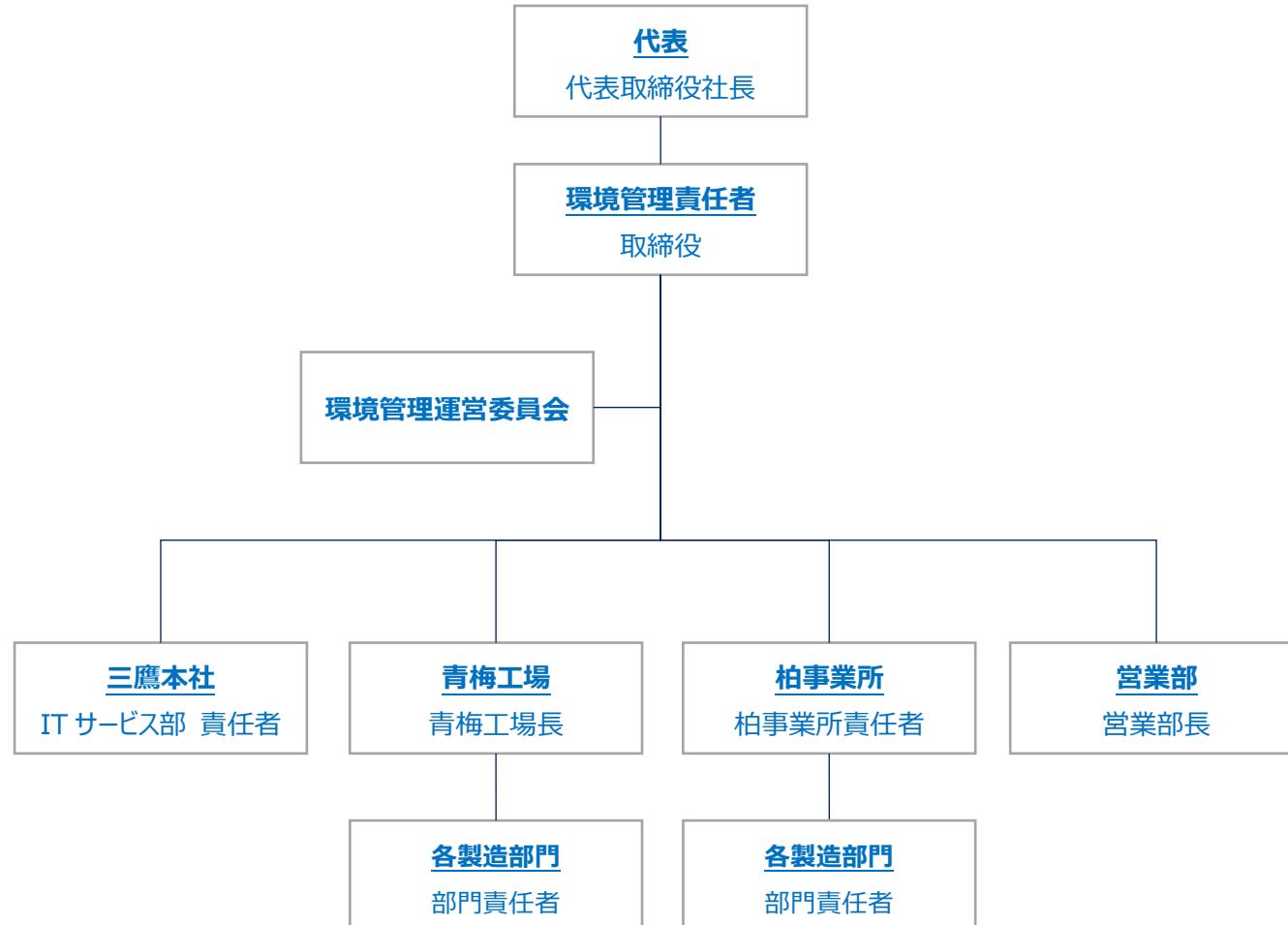
- (1) 製造工程、ITサービス業務で使用する電気消費量の削減に取り組みます。
- (2) 社員全員が会社の環境負荷を把握し、省エネルギー・廃棄物の削減に努めます。
- (3) 製品不良率の削減、早期納品、およびIT技術の活用による業務効率化により、環境負荷の低減に取り組みます。
- (4) 社員全員が環境保全に対する意識向上に努めます。
- (5) 社外に環境保全活動の重要性を発信していきます。
- (6) 環境に関する法規制や条例および当社が合意するその他の要求事項を遵守します。
- (7) グリーン購入に努めます。

令和2年3月31日

株式会社東興電機製作所
代表取締役社長 坂郷治



5. 実施体制



役割、責任及び権限

* 「EMS」 = 環境マネジメントシステム、「EA21」 = 「エコアクション 21」

代表	1	代表者
	2	環境方針の作成、見直しを行う
	3	環境方針を承認、周知する
	4	環境管理体制の整備を行う
	5	資源（人・もの・金）の決定権を有する
	6	定期的に EA21 全体の取組状況に関し評価、見直しを実施する
	7	環境管理責任者、環境運営委員等を任命する
環境管理責任者	1	EA21 ガイドラインの要求事項を満たす環境経営システムを構築、実行し、実績の向上をはかる
	2	上記 1 の結果を代表者へ報告する
	3	EA21 文書類の承認、決済を行う
	4	環境委員会の委員長として環境保全活動全般の舵取り、実行推進を行う
	5	資源（人・もの・金）の承認を行う
	6	環境委員、部門代表を指名する
	7	社外からの苦情などの環境管理情報を受理、記録する
	8	その他、EMS の確立、実施、維持及び管理に関し必要な業務を行う
環境運営委員会	1	EMS の運用管理に必要な人的資源、技能等の準備を行う
	2	環境管理責任者を推薦し、EMS の確立、実施、維持等に関する業務及び、EMS の実績に関し本会議に報告する業務を行う
	3	環境への負荷の自己チェックを実施する
	4	環境への取り組みの自己チェックを実施する
	5	環境目標の設定及び環境活動計画の作成、見直しを行う
	6	環境経営の手順書の作成及び改訂を行う
	7	EMS の見直しを行う
	8	環境管理委員会の円滑な運営のための各部門内の連絡・調整をする

6. 環境経営目標および実績

(株)東興電機製作所 2023年度 環境経営目標および実績

計画作成日：2023年 1月 18日、実績記録日： 2024年 3月18日
作成・記録者：馬場 桂（環境管理運営委員会）、承認者：川本 純子（環境管理責任者）

■2023 年の目標

- 1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進
基準年（2022 年）実績に対し、現状維持
- 2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進
 - ・廃棄物の排出量：基準年（2022 年）実績に対し、現状維持
 - ・廃棄物等の分別区分、分別の実施方式、保管場所の明確化・表示方法、マニフェストの管理
- 3) 水使用量の削減
基準年（2022 年）実績に対し、現状維持
- 4) 化学物質の適正管理
適性管理、監視強化の推進
- 5) 環境に関する取組の向上
現場の意識向上
- 6) 製品およびサービスへの環境配慮
業務の効率化（不良の削減、IT 技術の活用）および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底

(参考) 中長期目標：2021年-2023年 ※2020年度に策定

対象項目	2020年度実績値	中長期目標		
		2021年度	2022年度	2023年度
1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進				
CO2排出量の削減	80.49kg-CO₂/人	基準年（2020年）実績に対し、現状維持	基準年（2021年）実績に対し、現状維持	基準年（2022年）実績に対し、現状維持
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	161.82kWh/人	基準年（2020年）実績に対し、現状維持	基準年（2021年）実績に対し、現状維持	基準年（2022年）実績に対し、現状維持
CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減	2.81L/人	基準年（2020年）実績に対し、現状維持	基準年（2021年）実績に対し、現状維持	基準年（2022年）実績に対し、現状維持
CO2排出量の削減 - 軽油使用量の削減	7.47L/人	基準年（2020年）実績に対し、現状維持	基準年（2021年）実績に対し、現状維持	基準年（2022年）実績に対し、現状維持
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進				
廃棄物の排出量の削減	10.09kg/人	基準年（2020年）実績に対し、現状維持	基準年（2021年）実績に対し、現状維持	基準年（2022年）実績に対し、現状維持
廃棄物の適正管理	—	・廃棄物等の分別の徹底 ・分別の実施方式、保管場所の明確化 ・マニフェストの管理徹底		
3) 水使用量の削減				
上水使用量の削減 ※三鷹本社は除く	0.61m³/人	基準年（2020年）実績に対し、現状維持	基準年（2021年）実績に対し、現状維持	基準年（2022年）実績に対し、現状維持
4) 化学物質の適正管理				
化学物質の適正管理	—	・管理対象化学物質の使用量、保管量管理の継続 ・環境負荷物質調査依頼への対応 ・新しい化学物質使用の監視強化		
5) 環境に関する取組の向上				
現場の意識向上	—	以下のような情報を伝える掲示物を定期的に作成し各拠点に掲示することにより、環境意識の向上を促す ・事業活動における直近のエネルギー使用量・廃棄物量 ・SDGsに関する啓発活動 弊社事業とSDGs目標を関連付け、社内外に周知する		
6) 製品およびサービスへの環境配慮				
不良の削減 IT技術の活用 環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止	—	業務の効率化および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底 ・不良の削減 -不良出荷 部門 0件 -破損弁償 各製造部門 0件 ・IT技術の活用 -生産性の向上（間接部門） 帳票システム化による属人化の解消		

(参考) 中長期目標：2024年-2026年

対象項目	2023年度実績値	中長期目標		
		2024年度	2025年度	2026年度
1) 環境負荷の低減・省エネルギーの推進				
CO2排出量の削減	73.65 kg-CO2/人	基準年（2023年）実績に対し、現状維持	基準年（2024年）実績に対し、現状維持	基準年（2025年）実績に対し、現状維持
CO2排出量の削減 -電力使用量の削減	150.46 kWh/人	基準年（2023年）実績に対し、現状維持	基準年（2024年）実績に対し、現状維持	基準年（2025年）実績に対し、現状維持
CO2排出量の削減 -ガソリン使用量の削減	3.40 L/人	基準年（2023年）実績に対し、現状維持	基準年（2024年）実績に対し、現状維持	基準年（2025年）実績に対し、現状維持
CO2排出量の削減 -軽油使用量の削減	3.76 L/人	基準年（2023年）実績に対し、現状維持	基準年（2024年）実績に対し、現状維持	基準年（2025年）実績に対し、現状維持
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進				
-廃棄物の排出量の削減	5.72 kg/人	基準年（2023年）実績に対し、現状維持	基準年（2024年）実績に対し、現状維持	基準年（2025年）実績に対し、現状維持
-廃棄物の適正管理		・廃棄物等の分別の徹底 ・分別の実施方式、保管場所の明確化 ・マニフェストの管理徹底		
対象項目	2023年度実績値	中長期目標		
		2024年	2025年度	2026年度
3) 水使用量の削減				
-上水使用量の削減 ※三鷹本社は除く	0.69 m3/人	基準年（2023年）実績に対し、現状維持	基準年（2024年）実績に対し、現状維持	基準年（2025年）実績に対し、現状維持
4) 化学物質の適正管理				
-化学物質の適正管理		・管理対象化学物質の使用量、保管量管理の継続 ・顧客からの環境負荷物質調査依頼への対応 ・新しい化学物質使用の監視強化		
5) 製品およびサービスへの環境配慮				
-不良の削減 -IT技術の活用 -環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止		業務の効率化および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底 ・不良の削減 -不良出荷 部門 0件 -破損弁償 各製造部門 0件 ・IT技術の活用 -生産性の向上（間接部門） 帳票システム化による属人化の解消		

■2023年の実績

CO2の総排出量 (kg-CO2) は以下の通りです。

2021年度	2022年度	2023年度
32,170.99 kg-CO2	36,550.12 kg-CO2	37,046.23 kg-CO2

※「従業員数」は年間平均（切り上げ）

対象項目	目標	(原単位実績)			実績（原単位実績） 2023年度 従業員数：38人
		2021年度 従業員数：38人	2022年度 従業員数：38人	2023年度目標値 従業員数：38人	
1) 環境負荷の低減 - 省エネエネルギーの推進					
CO2排出量の削減	基準年(2022年) 実績に対し、現状維持	71.97 kg-CO2/人	73.56 kg-CO2/人	73.56 kg-CO2/人	73.65 kg-CO2/人
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	基準年(2022年) 実績に対し、現状維持	154.74 kWh/人	152.31 kWh/人	152.31 kWh/人	150.46 kWh/人
CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減	基準年(2022年) 実績に対し、現状維持	3.11 L/人	3.29 L/人	3.29 L/人	3.40 L/人
CO2排出量の削減 - 軽油使用量の削減	基準年(2022年) 実績に対し、現状維持	3.32 L/人	4.66 L/人	4.66 L/人	3.76 L/人
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進					
廃棄物の排出量の削減 廃棄物の適正管理	廃棄物の排出量：基準年(2022年) 実績に対し、現状維持 廃棄物等の分別区分、分別の実施方 式、保管場所の明確化・表示方法、 マニフェストの管理	10.09 kg/人	12.65 kg/人	12.65 kg/人	5.72 kg/人
3) 水使用量の削減					
上水使用量の削減 ※三鷹本社は除く	基準年(2022年) 実績に対し、現状維持	0.64 m³/人	0.60 m³/人	0.60 m³/人	0.69 m³/人

対象項目	目標	実績
4) 化学物質の適正管理		
化学物質の適正管理	適性管理、監視強化の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・管理対象化学物質の使用量、保管量管理の継続 ・環境負荷物質調査依頼への対応 ・新しい化学物質使用の監視強化
5) 環境に関する取組の向上		
現場の意識向上	各事業所のエネルギー使用実績の周知 SDGsに関する啓発活動	<p>掲示物を作成し、各事業所へ掲示した。 各事業所の全体ミーティングで周知した。</p> <p>弊社事業とSDGs目標を関連付け、社内外に周知する取組は実施できなかった</p>
6) 製品およびサービスへの環境配慮		
不良の削減 IT技術の活用 環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止	業務の効率化（不良の削減、IT技術の活用）および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底	<p>不良記録の徹底、再発防止処置の徹底 間接部門の作業効率化 帳票システム化による属人化の解消 環境負荷物質の製品含有の削減、禁止の徹底</p>

* 保管：環境管理運営委員会

排出係数：電力（東京電力エナジーパートナー）：0.457 kg-CO2/kWh

電力（ミツウロコグリーンエネルギー）：0.342 kg-CO2/kWh

ガソリン：0.0671kg-CO2/MJ

軽油：0.0687kg-CO2/MJ

7. 環境経営活動計画・取組結果と評価

(株)東興電機製作所 2023年度 環境経営活動計画・取組結果と評価

計画作成日：2023年1月16日、最終更新日：2024年3月8日
作成・記録者：馬場 桂（環境管理運営委員会）、承認者：川本 純子（環境管理責任者）

■取組内容

1. 行動目標（定性目標）

対象項目	取組内容	取組内容詳細	実施担当	
1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進				
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	不要照明の消灯	✓ 各部所において、不要箇所の頻繁な消灯(昼休みは消灯)	全従業員	
	周辺機器の節電	✓ 長時間不使用時にはPCをスリープモードもしくは電源OFF		
		✓ 暖房便座は、夏期は電源を落とし使用後は蓋を閉める		
		✓ 電気ポットの長時間の保温を避ける		
		✓ 冷蔵庫の温度調整は室温に合わせて調整する		
	室内温度調節の徹底（エアコン）	✓ 冷房温度28°C ± 1°C、暖房温度20°C ± 1°Cに設定、クールビズ、ウォームビズを実行		
		✓ エアコンのフィルター清掃及び点検の実施		
		✓ 遮光スクリーン、ブラインド及び窓の開閉で室温調整		
	CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減 - 軽油使用量の削減	車両の点検整備の徹底	✓ 点検整備を適宜実施し、燃費を向上させる	車両使用者
		エコドライブの実践	✓ エコ運転、アイドリングストップの励行	
			✓ 燃費効率の良い配送経路の検討	
			✓ 交通法規の順守、過積載の禁止	
		適切な資源の選択、設定	✓ 低燃費車（エコカー）の導入	
			✓ 公共交通機関での移動を心がける	

対象項目	取組内容	取組内容詳細	実施担当
2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進			
- 廃棄物の排出量の削減	分別の徹底	✓ ゴミの分別を徹底する	全従業員
- 廃棄物の適正管理	3R（リデュース、リユース、リサイクル）の徹底	✓ 使用済みインカートリッジは業者指定のリサイクル店に持っていく ✓ 部材の端材等の有効利用	
	紙資源の削減（ペーパーレス）	✓ 社内文書の電子化（電子メールの活用） ✓ 両面印刷や集約印刷、省インキモードでの印刷 ✓ 社内文書の裏紙利用	
3) 水使用量の削減			
- 上水使用量の削減	節水の徹底	✓ 各蛇口の節水、ルールの徹底	全従業員
	漏水点検の実施	✓ 蛇口等の水漏れ点検	
4) 化学物質の管理			
- 化学物質の適正管理	適正使用量、保管料の把握を継続	✓ 化学物質管理台帳の運用、定期点検、記録にて継続管理 ✓ 施錠された保管庫による紛失、誤使用防止	管理担当者
	環境負荷物質調査依頼への対応	✓ 顧客からの適合要求に対しての迅速な情報提供	
	新しい化学物質使用の監視強化	✓ 該当物質について代替えなど検討および正しい届出がされているかの確認	
5) 環境に関する取組の向上			
現場の意識向上	・事業活動における直近のエネルギー使用量・廃棄物量を知らせる掲示物の作成、掲示 ・SDGsに関する啓発活動 弊社事業とSDGs目標を関連付け、社内外に周知する	✓掲示物を定期的に作成し各拠点に掲示する 弊社事業とSDGs目標を関連付け、社内外に周知する →残念ながら取組を実施できなかった	環境管理責任者
6) 製品およびサービスへの環境配慮			
- 不良の削減 - IT技術の活用 - 環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止	業務の効率化（不良の削減、IT技術の活用）および顧客要求に従った環境負荷物質の製品への含有の削減、禁止の徹底	✓不良記録の徹底、再発防止処置の徹底 ✓間接部門の作業効率化 帳票システム化による属人化の解消 ✓環境負荷物質の製品含有の削減、禁止の徹底	全従業員

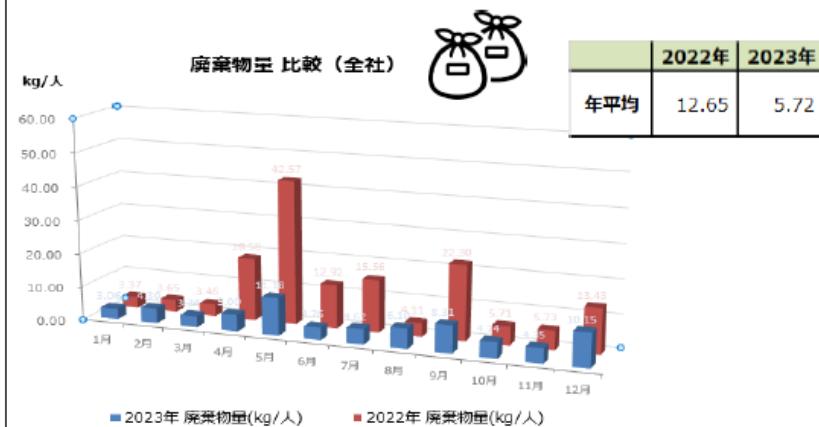
■取組結果と評価

対象項目	取組の実施状況	評価																																							
1) 環境負荷の低減 - 省エネルギーの推進																																									
CO2排出量の削減	<p>CO2排出量 比較 (全社)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年</td> <td>110.45</td> <td>108.55</td> <td>105.55</td> <td>85.55</td> <td>82.55</td> <td>78.55</td> <td>75.55</td> <td>72.55</td> <td>70.55</td> <td>68.55</td> <td>65.55</td> <td>62.55</td> </tr> <tr> <td>2023年</td> <td>108.45</td> <td>106.55</td> <td>103.55</td> <td>83.55</td> <td>80.55</td> <td>76.55</td> <td>73.55</td> <td>70.55</td> <td>68.55</td> <td>66.55</td> <td>63.55</td> <td>60.55</td> </tr> </tbody> </table>	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年	110.45	108.55	105.55	85.55	82.55	78.55	75.55	72.55	70.55	68.55	65.55	62.55	2023年	108.45	106.55	103.55	83.55	80.55	76.55	73.55	70.55	68.55	66.55	63.55	60.55	評価：前年比で増加した 影響要因：活動範囲が広がり、ガソリンの使用量が増えたことが要因と考えられる 次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																													
2022年	110.45	108.55	105.55	85.55	82.55	78.55	75.55	72.55	70.55	68.55	65.55	62.55																													
2023年	108.45	106.55	103.55	83.55	80.55	76.55	73.55	70.55	68.55	66.55	63.55	60.55																													
CO2排出量の削減 - 電力使用量の削減	<p>電力使用量 比較 (全社)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2022年</td> <td>225.46</td> <td>220.03</td> <td>198.15</td> <td>181.05</td> <td>151.57</td> <td>139.95</td> <td>130.25</td> <td>130.75</td> <td>141.38</td> <td>127.15</td> <td>115.63</td> <td>120.00</td> </tr> <tr> <td>2023年</td> <td>218.46</td> <td>213.03</td> <td>186.15</td> <td>161.05</td> <td>131.57</td> <td>119.95</td> <td>110.25</td> <td>110.75</td> <td>121.38</td> <td>107.15</td> <td>95.63</td> <td>100.00</td> </tr> </tbody> </table>	年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2022年	225.46	220.03	198.15	181.05	151.57	139.95	130.25	130.75	141.38	127.15	115.63	120.00	2023年	218.46	213.03	186.15	161.05	131.57	119.95	110.25	110.75	121.38	107.15	95.63	100.00	評価：年間を通じて削減された 影響要因：工場照明のLED化、社員の取組の成果により、削減できた。 次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。
年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																													
2022年	225.46	220.03	198.15	181.05	151.57	139.95	130.25	130.75	141.38	127.15	115.63	120.00																													
2023年	218.46	213.03	186.15	161.05	131.57	119.95	110.25	110.75	121.38	107.15	95.63	100.00																													

対象項目		取組の実施状況				評価																																									
					2022年	2023年																																									
		年平均																																													
	CO2排出量の削減 - ガソリン使用量の削減	ガソリン使用量 比較（全社） <table border="1"> <caption>ガソリン使用量 比較（全社）</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2023年ガソリン使用量(L/人)</th> <th>2022年ガソリン使用量(L/人)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1月</td><td>4.65</td><td>4.20</td></tr> <tr><td>2月</td><td>2.20</td><td>2.20</td></tr> <tr><td>3月</td><td>3.80</td><td>5.00</td></tr> <tr><td>4月</td><td>1.50</td><td>4.50</td></tr> <tr><td>5月</td><td>1.50</td><td>1.50</td></tr> <tr><td>6月</td><td>1.50</td><td>4.00</td></tr> <tr><td>7月</td><td>1.50</td><td>1.50</td></tr> <tr><td>8月</td><td>5.00</td><td>3.00</td></tr> <tr><td>9月</td><td>1.50</td><td>2.50</td></tr> <tr><td>10月</td><td>4.50</td><td>4.50</td></tr> <tr><td>11月</td><td>1.50</td><td>5.00</td></tr> <tr><td>12月</td><td>1.50</td><td>2.50</td></tr> </tbody> </table>	月	2023年ガソリン使用量(L/人)	2022年ガソリン使用量(L/人)	1月	4.65	4.20	2月	2.20	2.20	3月	3.80	5.00	4月	1.50	4.50	5月	1.50	1.50	6月	1.50	4.00	7月	1.50	1.50	8月	5.00	3.00	9月	1.50	2.50	10月	4.50	4.50	11月	1.50	5.00	12月	1.50	2.50	年平均 2022年 3.29 2023年 3.40					
月	2023年ガソリン使用量(L/人)	2022年ガソリン使用量(L/人)																																													
1月	4.65	4.20																																													
2月	2.20	2.20																																													
3月	3.80	5.00																																													
4月	1.50	4.50																																													
5月	1.50	1.50																																													
6月	1.50	4.00																																													
7月	1.50	1.50																																													
8月	5.00	3.00																																													
9月	1.50	2.50																																													
10月	4.50	4.50																																													
11月	1.50	5.00																																													
12月	1.50	2.50																																													

2) 廃棄物の削減及びリサイクルの推進

- 廃棄物の排出量 (t/人) の削減
- 廃棄物の適正管理



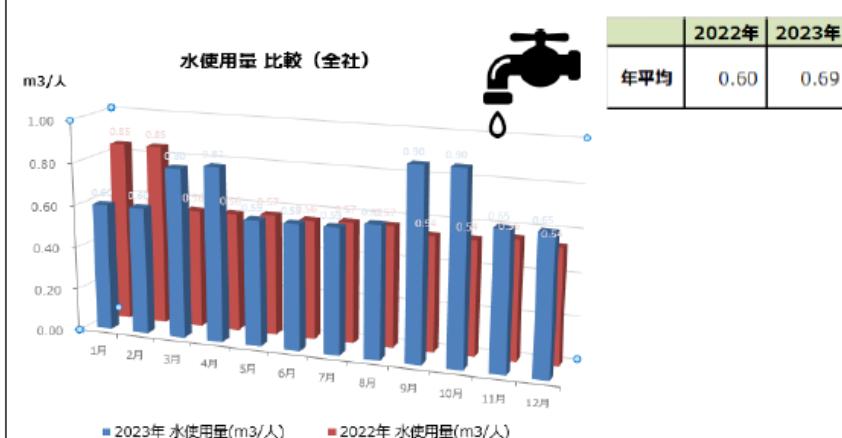
評価：年間を通じて削減された

影響要因：梱包材のウレタンを廃棄ではなく返却するシステムにしたことで、廃棄物量の大きな削減となった。

次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。

3) 水使用量の削減

- 上水使用量 (m³/人) の削減



評価：前年比で増加した

影響要因：青梅工場の修繕工事等の際に、水使用が増加したが、通常時はおおむね節水の取組が出来ている。

次年度目標：現状を維持できるよう、取組を実施する。

対象項目	取組の実施状況
4) 化学物質の適正管理	<ul style="list-style-type: none"> - 化学物質の適正管理 <ul style="list-style-type: none"> ・化学物質管理台帳の運用にて、適正使用量、保管量把握の継続 ・顧客からの環境負荷物質調査への対応（本年度は、改正RoHS2.0指令、パーカルオロウツク酸- PFOA） ・新しい化学物質使用の監視強化（本年度は、PRTR法に該当する量の化学物質の新規取り扱いなし）
5) 環境に関する取組の向上	<ul style="list-style-type: none"> - 現場の意識向上 <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物を定期的に作成し各拠点に掲示した ・弊社事業とSDGs目標を関連付け、社内外に周知する取組は実施できなかった
6) 製品およびサービスへの環境配慮	<ul style="list-style-type: none"> - 不良の削減 <ul style="list-style-type: none"> ・不良記録の徹底、再発防止処置の徹底 ・間接部門の作業効率化 ・帳票システム化による属人化の解消 ・環境負荷物質の製品含有の削減、禁止の徹底

* 保管：環境管理運営委員会



(株)東興電機製作所
2023年度 環境教育・訓練計画および実績

計画作成日：2023年1月27日、実績記録日：2024年3月18日

作成・記録者：馬場 桂（環境管理運営委員会）、承認者：川本 純子（環境管理責任者）

■教育・訓練計画 / 実績

種類	対象者	目的	内容	頻度	責任者	講師	2023年度スケジュール												備考
							01	02	03	04	05	06	07	08	09	10	11	12	
一般教育	全従業員	一般的な環境に対する自覚を高める	環境方針、環境目標、環境活動計画の徹底を図る	隔月	環境管理責任者	環境管理責任者、環境運営委員会委員				○						○			4月に全体会議で環境経営方針、目標について確認。 (4/4実施) 直近のエネルギー使用量・廃棄物量データを盛り込んだ掲示物の作成、掲示。 11月全体会議で発表 青梅11/21、柏11/22実施
	部門責任者	環境経営の戦略的重要性の自覚を高める	EA21の内容、環境問題の現状、環境経営の必要性	1回／年以上	同上	環境管理責任者、環境運営委員会委員		○								○			ISO・EMS統合化の取り組みの一環として、内部監査にて実施。 青梅：1/13-17、8/1-3実施 柏：2/8実施
専門教育	全従業員	作業効率UP 不良削減	特殊工程教育	同上	同上	社内講師				○									製品およびサービスへの環境配慮の目標である不良削減へ向け、特殊工程教育の実施 4/10特殊工程教育（座学）実施

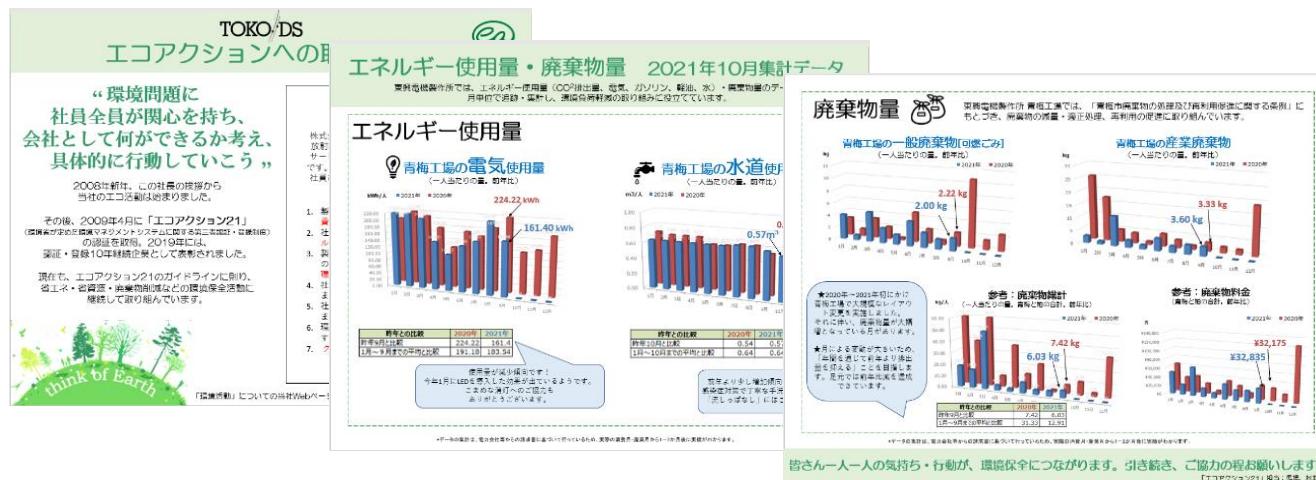
* 保管：環境管理運営委員会

8. 活動内容の紹介

内部コミュニケーション

工場および本社内の掲示物作成

集合ミーティングや掲示物にて、電気使用量、水使用量、廃棄物量のデータを定期的に社員へ向けて発信し、環境活動へのモチベーションの持・強化を図っています。



外部コミュニケーション

企業 Web サイトでの情報発信

企業 Web サイト内に、「エコアクション 21」への取り組みを紹介するページを設けて毎年レポートを掲載しているほか、「当社の環境負荷物質への対応について」というページでは、製造時に調達する部材や資材、その他物品に関する管理体制や、改正 RoHS (RoHS2) 指令への対応状況について記載し、当社の取り組みを周知しています。

■ 「人と地球にやさしい環境づくり」ページで 環境経営レポートを公開

<https://www.tokods.com/tds/about-us/environment/>



■ 「当社の環境負荷物質への対応について」ページで
RoHS2) 指令への対応状況についても説明

<https://www.tokods.com/tds/about-us/environment/rohs2/>



■ 「当社の環境負荷物質への対応について」ページで RoHS2) 指令への対応状況についても説明

消防訓練の実施

各拠点において、消防訓練が実施しましたので、報告します。

[三鷹本社]

○2023年4月10日

- 防災用品収納場所の確認
- 消火器、消火栓設置場所の確認
- 避難経路の確認（非常階段）
- 一時避難場所の確認（第一中学校、井の頭小学校）
→第一中学校は建て替え工事中のため、しばらくは井の頭小学校へ避難

[柏事業所]

○2023年12月8日

- 防災用品収納場所の確認
- 消火器、消火栓設置場所の確認
- 避難経路の確認（非常階段）
- 一時避難場所の確認（KT プロムナード駐車場）

[青梅工場]

○2023年12月1日

- 消火器の場所・避難経路（非常階段）の確認（表示物掲示）
- 初期消火の練習
- 避難時（マスク・手ぬぐい等で口元を押さえる）
- 一時避難場所の明確化（表示物掲示）（藤橋小学校）
- （仮）一時避難場所（会社駐車場）での各課の人数点呼確認

（青梅市ハザードマップでは、災害時の一時避難場所は 藤橋小 となっている（表示物掲示）ので、実際の火災発生時には 藤橋小まで移動する）



9. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟等の有無

環境関連法規の違反・訴訟等は、当社の環境関連法規制一覧表にてチェックした結果、過去および現在において一切ありませんでした。また、創業以来、関係機関等からの法規制違反の指摘、近隣からの指摘・苦情もありません。なお、下記法規制等が当社に該当いたします。

- 法律 -

環境基本法
循環型社会形成推進基本法
RoHS 指令
改正 RoHS 指令
REACH 規制
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
道路運送車両法
消防法
労働安全衛生法有機溶剤中毒予防規則
グリーン購入法
フロン排出抑制法
製造物責任（PL）法

- 条例 -

【東京都】
東京都健康と安全を確保する環境に関する条例
(東京都環境確保条例等)
【武蔵野市】
武蔵野市廃棄物の処理及び再利用促進に関する条例
【青梅市】
青梅市廃棄物の処理及び再利用促進に関する条例
【千葉県】
千葉県廃棄物の処理の適正化等に関する条例

10. 外部からの苦情などの受付状況及び対応結果

2023年度、外部からの苦情はありませんでした。

11. 代表者による全体評価と見直しの結果

新型コロナ感染症による活動制限は5月で解除となり、活動範囲が広がったが、環境への負荷は昨年度とほぼ同様であった。

従業員の環境に対する意識は高いと思われるが、円安の影響もあり、エネルギー価格が高騰しているので、次年度もさらなるエネルギー消費の削減に向け、しっかりと活動していきたい。

防災訓練は、各拠点で実施できた。日本は特に自然災害が多い国であるため、次年度も防災訓練はしっかり行い、環境意識に加え、防災意識も高めていく。